

○12番（三宅 耕三君） 皆さん、おはようございます。

本当に久しぶりの一般質問であります。5年ぶりに復帰をして、一般質問に立つのは6年ぶりということで、うまく質問ができるかどうか不安であります。

心地よい緊張感の中、進めさせていただきますが、先週から卓球の世界選手権がドイツで行われておりまして、夜な夜な見入っております。日本人の若手の大活躍に感激をしながら翌日を迎えるというのが続きました。

そんな中で私は昔から直球しか投げられないということをよく言われました。今度はチキータとまではいきませんが、若干の変化球を覚えたつもりです。

それでは今日は町長の政治姿勢について、質問いたすわけでありますので、これをただす上において、まずは自分の政治姿勢を明らかにするという意味において、欠かすことができない大事な部分でありますので、これからの発言は前置きではありませんので、念のため申し上げ、早速質問に入りたいと思います。

私は平成4年に39歳で初当選をさせていただきました。以来、連続5回当選をさせていただきました。その最初に当選をさせていただいて招待をいただいた上げ馬神事で、目の前を駆け抜ける勇壮な人馬一体の姿に全身鳥肌が立ち、感動したのを今でも覚えております。

議員を長く務めておりますと、一方的な思い込みや、議員になったから何でもできるという大きな勘違いなどがよくありました。また、議員だからといって議員を呼び出し、長時間のやりとりで職員を拘束するなどは、著しく業務に支障を来す、とんでもない行為だと私は気がつきました。そのうち執行者、つまり町長との意見などの違いで挫折を味わったり、議員としての力の限界を感じるようになり、随分悩んだり歯がゆい思いをしたことも何度かありました。

そんな5期目の最後の年、町長選挙があり、私は町長選挙に出馬することを決心いたしました。そして挑戦をいたしました。選挙の神様といわれるほどの現在の水谷町長に完膚なきまで打ちのめされ、落選をしてしまいました。人間、負けて悔しくないわけがありません。私も例外ではありませんでした。時が経つにつれ、町民が下した結論に、それを受け入れるようになり、負けは負けという本来のスポーツマン精神に戻り、と同時に私が当時駆け出しだったころ、水谷俊郎町長は1年先輩の三重県議会議員でした。そして同じ志を持つ者同士、数名で政策グループを立ち上げ、地方から国を変えようという崇高な理念のもとに活動してきた同士であったことを思い出し、そのころの熱い気持ちに戻ることができました。

最初はもう政界から引退するつもりで、町長選挙の翌年に実施された町議会議員選挙には何のためらいもなく出馬をしませんでした。選挙に出馬しなかったからといって東員町に関心がなくなったわけでもなく、また元同僚議員の活動に関心がなかったわけでもありませんでした。

それから1年、大阪の政治塾に通って勉強したこともありました。側面から議員の発言や行政の対応、そして町長と議会の関係を住民の立場でしっかりと見させていただきました。町長と議会は両輪のごとく進むという、そういうのが町民の負託に応える最も理想なものであるというふうに思っております。ところが私の目や耳に飛び込んできたものは、あの議員は町長派だからとか、反町長派だからとか、そういった住民置き去りの議論ばかりが話として漏れ聞

こえてきたわけであります。残念で仕方がありませんでした。

それから私は家族以外、いろいろな方々の強い勧めがあつて、この東員町を何とかしたい、この議会を何とかしたいという強い思いに駆られ、昨年、議会議員選挙に出馬し、ここに立つ機会を頂戴いたしました。

5年ぶりとはいえ、議員として戻ってきたからには甘い気持ちで臨むわけにはいきません。信頼される議会を目指し、6期目の議員として、決して恥ずかしくない活動をして、若い議員にも範を示せるような議員になりたいという思いで日々議会活動に取り組んでいるつもりであります。「議会を引っ張る力はなくても足を引っ張る力はだれよりも強い」などと言われたいよう、当選回数にふさわしい議会活動をしていきたいと思っております。

それからこれだけははっきりと申し上げておきます。私はこれから先、二度と町長選挙に出馬するつもりはありませんので、うわさは流さないでいただきたい、とお願いをしておきます。いろいろと誤解というものにつきましてはありますが、この頭の白いのは一部分でありますけれども、天然です。よく染めているんじゃないかとか、やり過ぎじゃないかとかいうことを聞くんですけども、全く私は頭の中まで天然ですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

水谷町長も私もお互いに年を重ねてきましたが、私は町長選挙で落選して以来、5年の間、いろいろな方面から議会を客観的に見て勉強をさせていただきました。議会の規則や地方自治法には一切男とか女とか新人とか古参とか、ましてや主婦だからとかサラリーマンだからという特別な例外の議会のルールはありません。

以前は東員町ふれあいフェスティバルというものがあつて、団地と、そして在来地区を一つにしようという思いから、いろいろな取り組みもなされておりました、私はそれ以来、もう東員町は一つだというふうに信じておりました。団地だからとか在来地区だからとかいうことは、もう二度と聞きたくありません。ワン東員町でいきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

議会に出てきた以上は、何をさて置いても議会を優先させるということは当たり前のことであります。議会は一丸となつて、今や名誉職ではない、議会と町長は共に選挙で選ばれた二元代表制として、よいものはよい、だめなものはだめだという、はっきりとした是々非々のスタンスで共に進む両輪として町民に期待をされていると思ひます。今日はその観点から質問をさせていただきます。

まず通告にある1つ目、昨年の9月、町長のご意向で進めてこられた東員町と株式会社C A Bとの間で、三重県の立ち会いのもと、マスコミまで呼んで協定書を交わし、大々的にスタートが切られた農業福祉観光を一体として進めるとした事業がいまだに姿が見えません。この遅延している理由、そして今後の事業展開について、詳細な説明を求めたいと思ひます。また、何か新たに次の事業展開のお考えがあれば、そのことについてもお伺いをさせていただきたいと思ひます。

2つ目、これも町長のご意向で職員が付度をし、始まったと思われる観光振興会、この発足の経緯とその理念、そして町長がよく言われる稼げるまちについて、詳細な説明を求めたいと

思います。そして以前からある東員町観光協会は一体どうなってしまったのか。その実態についての説明と観光協会と観光振興会の整合性について、ご説明を求めたいと思います。

そして3つ目、東員第一中学校の移転問題がささやかれております。現実味のある構想なのか、あるとすればどこまで検討されているのか、その進捗状況をお伺いしたいと思います。そして町長が新時代にふさわしい構想で、何か先進的な学校にするための特長的な施策があればお伺いをしたいと思います。これは教育長が答えたいというような顔をしていますけど、今日は町長のお考えを聞くわけですので、ちょっと我慢をしていただいて、町長に答弁をいただきたいと思います。

そして4番目、逼迫する町財政の中で事業展開をしていくには、町長自らが国、県とのパイプ役を果たし、トップセールスを行っていくことが町益に繋がるとは思いますが、この大変な時期であります。町長としての覚悟、そして荒波に向かう町長の政治姿勢をこの場で明らかにしていただきたいと思います。

6月20日、私たち議員数名で国会へ出向き、町部局から国への要望書というのを預かって、国会議員、そして担当省庁の職員と面談をしております。できればそういったことを町長自身が行っていただくことによって、この東員町はできるだけ町単費ではなく、国県などの補助金をいただけるようになれば、これからの財政、少しでも町益に繋がるとは思いませんかというふうに思いますので、その観点でよろしくご答弁をいただきたいと思います。

それから5番目、町長はあまり思いが強過ぎて、恐らくいろいろな事業をお考えのことだと推察をいたします。水谷町長の事業展開を見て、落としどころがよく見えないという声を聞くことがあります。町長は一体この東員町をどういうまちにしようとしているのか、町長が描くこの東員町の将来像、ランドデザインをお示しいただきたいと思います。

以上、ご答弁よろしく願いいたします。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） おはようございます。

今、三宅議員のお話を伺いながら懐かしく聞いておりました。もう20年、あるいはそれ以上になると思うんですが、私、当時、県会議員をやっておりましたけれども、十数名の議員もおりましたし、県や市町の職員もおりましたが、いろいろ研修に出かけたり、半日ぐらい議論をしていたこともあったなと懐かしく思いました。

今回は私の政治姿勢について、5点、ご質問をいただきましたので、順次お答えをさせていただきます。

まず農・福・観光連携事業につきましてですが、農福連携事業のさらなる充実、耕作放棄地の有効活用、さらには新しい付加価値のある農業を推進するために、一般社団法人CAB（茨城県水戸市）と本町とが協力して、次世代農業に関する研究や新規就農者の育成、農産物の生産及び商品企画を行い、新しい農業展開による雇用の創出と地域活性化、観光農園への多角的な事業を展開し、魅力ある地域づくりと障がい者雇用の拡充を目指して、昨年9月に本町と一般社団法人CABとの間で「農業・福祉・観光連携事業」の協定を締結いたしました。

当初計画では、本年1月末からビニールハウスの建築に取りかかり、3月にはミニトマトの苗の定植を完了し、5月上旬の出荷、ブドウにつきましては苗木の生育管理を行っていただく予定でございました。ところが事業実施直前になり、CABが連携事業を行うために予定をしておりました資金調達に支障を来したと、そのために事業着手が遅れるという報告がございました。それを受けて、我々、CABとも、善後策の協議を行いました。CABが非常に強い意向を持っておりまして事業を展開したい、そのためにCABの自己資金によって、この事業を継続したいということでもございましたので、その方向で調整をさせていただきました。

本町といたしましては、まず事業をスタートさせていただいて、最初の事業運営をしっかり軌道に乗せ、順次事業拡大を図っていただくことを期待をいたしておりました。ところが3月になってもビニールハウス建築に着手していただけないことから、3月末にCABを呼んで再三再四早く立ち上げることを要望をいたしました。

それを受けて4月に基礎だけはできたんですが、それ以上なかなか進んでいかない。そして現在もハウス本体の建設工事に取りかかっていないという状況から推測いたしますと、資金調達に苦慮されているものではないかと思っております。

もともと、この連携事業は全てCABの資金で行っていただくこととなっております。資金調達のめどが立たないまま、ずるずると事業着手を引き延ばすことは、本町といたしましても、あるいはCABにとりましてもメリットはございません。約束の日から半年が過ぎようとしている今、非常に残念なことではあるんですが、CABとの農・福・観連携事業の協定を解約するという方向も含めて、今後の事業計画変更について、早急に検討してまいりたいと考えております。

なお、その後のことに関しましては、今、別のところと話を進めておりますが、これはまだCABとの決着がつかないということと、話し合いの途中であるということでもございますので、また別の機会に、そういう話が進んでまいりましたら、議会に報告させていただきたいというふうに思っておりますので、よろしくお願いを申し上げます。

2点目の観光振興会について、お答えをさせていただきます。

東員町観光協会は平成18年4月1日に発足し、平成22年6月10日、一般社団法人の設立に至りました。当協会は本町の観光振興の役割を担い、観光行事やイベント企画として大社祭への参加、コスモスまつり、流鏝馬道中、フォトコンテストなど、観光振興を通じた地域づくりや、観光集客のための取り組みに貢献をいただいております。

しかしながら現在では組織の運営や活動方針などの調整不足、役員の高齢化などにより、組織自体の弱体化が進み、実態として機能していない状態が続いておりまして、組織復旧のめどが立っていません。

このことにより、当協会の運営・事業等全てが停止したことにより、休業をせざるを得ない事態になったものと聞いております。

そのような中、平成29年度から熱意と実行力を持った若い人を中心に、本町の観光振興のかなめとなって進めていくことを念頭に置いた新しい組織として、東員町観光振興会が発足い

たしました。

東員町観光振興会では、まず自主活動組織を基盤として、組織体制の強化を図り、観光集客ができるイベントの企画、あるいは提案・運営、特産品の開発などを手がけておられまして、本町の観光振興に寄与していただくことを期待をいたしております。

次に3点目の東員第一中学校の建て替えに関する構想についてでございますが、東員第一中学校は、昭和37年に校舎南館が建設され、50年以上が経過いたしております。平成26年8月から始まった「小中学校適正規模適正配置検討委員会」においては、小中学校の規模・配置の適正化及び老朽化等について基本的な考え方や、その方策について協議を重ねていただいておりますが、その中で平成28年2月に、第一中学校校舎の老朽化が著しく、建て替えが急務であるとの提言をいただき、それを基に基本構想に向けた検討を始めております。

本年度は校舎の改修に必要な調査や本構想に着手し、先進地の視察や関係機関との打ち合わせを行い、課題の整理と地域の実情に応じた活力ある学校づくりのための方策を検討するとともに「施設整備指針」や「防災機能・エコスクール等」のモデル事案等も検証し、安全・安心な学習環境と、東員町16年一貫教育プランの実践に配慮した地域に開かれた特色ある学校づくりを目指し、整備方針の策定に取り組んでまいりたいと考えております。

次にいわゆるトップセールスについて、お答えをいたします。

これまで何度も申し上げてまいりましたが、本町の財政状況は、収入面では働く世代の人口減少により町税は減少し、支出面では高齢化に伴い、扶助費が増加の一途をたどっております。こうした中、新たな事業展開を考えるには財源確保が必要になってきます。

国・県からの補助金や交付金につきましては、新産業創造に向けて、内閣府と地方創生推進交付金の活用について事前相談をいたしております。また、東員駅前の市街化編入につきまして、国土交通省や中部地方整備局、あるいは東海農政局などに、県ご当局にもご同行をいただきまして協議を進めております。そしてそれにつきましては、ようやく今手応えを感じてきている状況にあります。

さらには財源確保には民間参入という手法もありまして、本町の取り組む事業に理解をいただく民間企業などの資金や技術を本町に投入していただき、企業の利益と地域への還元、この両方を求めるソーシャルビジネスという手法も考えておりまして、こうしたチャンスをつかむための働きかけも必要と考えております。

次に5点目の東員町の将来像について、お答えを申し上げます。

私の描く東員町の将来像は、町民が主体となって身の丈に合った生活の質の高い自立した町を作る取り組みを進めることでございます。みんなが、これまでのように経済は右肩上がりなんだということ、そういう意識というものを払拭をしていただいて、「ないものねだり」をせず、だれもが心豊かに暮らせるまちづくりを進めていかなければならないと考えておりまして、その基本となる概念として「健康活躍のまち」を掲げております。

また、本町は他市町に例を見ないスピードで高齢化が進んでおります。そして財政状況がますます厳しくなる中、限りある財源の有効活用を一層進めなければなりません。ただ、出るを

制だけではなくて、片一方では入るを図る観点から、町全体で「稼ぐ」ということを進めていかなければならないと考えております。

今年スタートさせました「新産業創造プロジェクト」は、まさに「稼ぐ」ことを念頭に置いた取り組みであり、本町における地域産業の採算性や継続性を向上させることにより、安定した地域産業の経営と地域における雇用の創出を図るとともに、地域への投資、還元を狙っております。

また、本町では今まで町運営に寄与していただきました笹尾・城山地区の皆さんの高齢化、あるいは東員インターチェンジの開通に伴うインセンティブの活用、こういった課題解決や将来展望に対応するため、そんなグランドデザインが求められるとっております。

本町はもともとコンパクトなまちであり、その特性を活かしたまちづくりを進める中で、北勢線東員駅前のインセンティブを最大限活用するため、まちの顔となる駅前整備に取り組み、まちづくりの拠点づくりを進めてまいります。

笹尾・城山地区の高齢化や、それに伴う地域の過疎化に対応することを、町の中心部である東員駅周辺における生活拠点づくりと連動させることにより、町内で人の移動・移住を促し、笹尾・城山地区での人の循環、当該地域の再生に取り組んでいかなければならないと考えております。

また、農業を核とした観光まちづくりの成果としての収穫した農産物や加工品の販売拠点などを考えておまして、こうした取り組みにより、様々なネットワークが広がるまちを創造していきたいと考えております。

町民の皆様や議員各位におかれましては、このことをご理解いただき、ご協力賜りますことをお願い申し上げます。

○議長（鷺田 昭男君） 三宅耕三議員。

○12番（三宅 耕三君） ご答弁いただきました。

今日、せっかくいっぱい書き込んできていた書類を忘れてきてしまいまして、今ご答弁をいただいた内容だけについて、質問いたしたいと思っております。

まず一番目ですけれども、資金調達がつかないから、いまだに姿が見えない状態であるという趣旨のご答弁だったかと思っております。昨日、グルメンピックの代表者、そして関係者が逮捕されました。いついつイベントを行うから出資をしてくださいという内容のものでしたけれども、もともとやる気がなかった、お金を集めることが目的で、そのイベントなるものを立ち上げ、出資を募ってそのまま先送りしてしまうという、東員町の場合、確かに出資はしていませんが、町長も職員も我々議会の常任委員会も現地に行って視察をしております。そのような中で、東員町が全く持ち出しをしていないということには、繋がらないと思っております。

そんな中、いまだに約束が守られないということは非常に憤りを感じております。もうこちらから三くだり半を叩きつけてもいいのではないのかと思われるほど、多分議員の皆さんも住民の方々も、そのような思いがあるのではないかなと思っております。そのことについて、先にあまり切り出してしまうと、こちらが勇み足になってしまうということになってはいけないので、

その辺のことを慎重にやっていただくということと、それから今の現状、そしてこれからのことも含めて、議会に説明を求めたいと思いますので、そのこともお約束をしていただきたいと思います。

次に2番目の観光振興会のことについてであります。観光協会が立ち上がって、いろいろな事業がなされました。上げ馬を応援するためにポスターを作成したり、そして新しい事業として、コスモスを活かしたコスモスの中を歩く流鏑馬道中であるとか、または花嫁道中であるとか、いろいろと企画をして、東員町のために尽くしてきたと思います。

それがいつの間にか弱体化してきて、今現在のようになったというのは非常に残念なことではありますけども、観光協会のメンバーの中にも、志のある人は何とかしたい、そう言って声もかけられ、立ち直す準備もしていたところが、観光振興会が立ち上がっていたということで、寝耳に水という方も数名、私たちもそうでしたけども、いらっしゃいます。

そのことをですね、説明責任があったのか、なかったのかは知りませんが、とにかくその辺を明確にさせていただきたかった。今度からは、できるだけ議員は口を出さないでいただきたいということも聞いたわけですけども、大いに口は出させていただきます。そのことを申し上げ、後ほどご答弁をいただきたいと思います。

それから中学校の構想で、ハード的なことについてお尋ねします。ソフトについては新しいものということで、いろいろとお聞きをいたしましたけども、ただ建物を建てて、そして中身が優しく住民に開かれたということですけども、やっぱり家庭にいる時間、昼間、日中は、ずっと子どもたちというのは学校にいるわけですね。そうすると建物の中には、今は当然当たり前のように太陽光発電とかもついているわけですけども、その太陽光発電も果たしてどのような活用をされるのか、冷暖房もありきたりな冷暖房なのか、その辺についてもわかる範囲内で、答えができる範囲内で説明していただければありがたいなと思います。

それから4番目の逼迫する財政の中での事業展開ということで、お尋ねをいたしました。年間一般会計で74億円あまり、特別会計を合わせますと150億円あまりというものが町長の方から提案をされてきます。私たち議会はこの数字の大きさ、改めて僕は久しぶりにこの数字にかかわって、このような恐ろしい金額のものを、何も勉強しないで審議できるのかというふうにつくづく思っております。

そんな中で責任重大というのは当たり前ですけども、町長も提案するにはそれなりの覚悟と、それなりのアイデアがあって提案をされるわけですので、我々以上に責任が重大だと思います。そのことについて、できるだけ国との大きなパイプを持っていただいて、政権政党に足を運んでいただきたい、これが今日の質問の趣旨です。その辺のご見解について、ご答弁をいただければと思います。

それから最後に「稼げるまち」というのが出てきましたけども、確におっしゃるとおりです。このようなこれまでのやり方では、10年後に財政調整基金も枯渇するというグラフが広報とういんに示されておりました。10年で枯渇するような財政状況なのかよということですけども、その中で、これまでどおりだったら確かに枯渇するでしょう。何とか東員町を立

て直さなければいけないということから、稼げるまちというのが出てきたと思いますけども、これを観光振興会とかに結びつけてしまうと、じゃあ東員町の商工会はどうなのよという話にもなってきますので、それは少し分けて考えていただければと思いますが、ご見解を伺いたいと思います。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） まずC A Bとの話ですが、今ようやく連絡がついて、来週来ていただくということになりました。そこでやっていただくことを前提ですけども、はっきりさせたい。これ以上ずるずるということは、我々にとっても、多分C A Bにとってもいい形ではないというふうに思ってますので、そこで決着というか、どうするかというのを、はっきりとつけたいなというふうに思っております。

それから観光協会でございますが、我々聞いているのは、内部がなかなかうまくいってない中で、総会が開けない状態であるというふうに聞いております。そんな中で、我々も観光協会を何とか再生をいただいて、これからも町のパートナーとしてやっていただきたいという意向をずっと持っておりましたが、なかなか難しいねという話になってきたときに、観光協会にもかかわってみえました若い方を中心に新たな動きが出てきたということで、それを受けて、ということになっております。観光協会そのものが、いまだどういうふうになっているのかというのは、ちょっとよくわからない状況で、今、休眠状態みたいなふうに聞いております。

それから一中につきましては、当然新しい、何か子どもたちにいい環境を作り出すということ、太陽光発電も含めまして、そんなことを我々考えておりますが、まだはっきりしたことが出てきておりませんので、今、研究はしておりますので、ある程度こういう構想でというものが出てきましたら、またお知らせをさせていただきたいというふうに思っております。

国会議員とのことなんですが、少なくとも三重県選出の国会議員の皆様とは、最低年に一度は話し合いをさせていただくという場を持っております。そして県選出国会議員だけではなくて、いろいろ我々、課題を解決するために動くんですが、ピンポイントでいい方がいれば、そこへお邪魔して陳情させていただく、いろいろ話し合いをさせていただくという機会も持たせていただいています。ですから県選出にこだわらずに、できるだけお願いできる場所はお願いをしていくというふうなことで、国会議員の皆さんとはおつき合いをさせていただいております。

これからの町の観光振興のことですけども、観光振興会だけではなく、当然商工会にも話をして、今一緒にやらせていただければということで話し合いをしておりますし、去年から若者会議という若い人たちの考え方、そういうものも取り入れていくということで、いろいろな方面からいろんなアイデアをいただきながら、そしてそれを議員もご存じの山田桂一郎さんに、ある程度まとめていただきながら、アドバイスいただきながら、観光振興とかまちづくりというものを今進めていっているという状況でございます。

○議長（鷺田 昭男君） 三宅耕三議員。

○12番（三宅 耕三君） ご答弁いただきました。



財政のことで国会議員にということ、いろいろお話をしたわけですが、やはり政権政党の力のある国会議員だと、それなりに動いてくれるんですね。

いろいろと三重県中の話を当時、議長会なんかでも聞いておまして、東員町だけが来てないよという話も聞きました。できればいろいろな古くからおやりの国会議員、結構なことだと思いますけども、やはり財源に繋がるような、そういった働きかけをぜひ町長にはしていただきたいと思います。政権政党の議員に働きかけを、一人で行きにくかったら、それぞれの立場で皆さん行きますよ。ですから両輪のごとく、町長、ここはやっていかないと、私は政権政党は嫌いだとか、私は野党は嫌いだとかって、好き嫌いの問題ではなくて、東員町のこととして考えていっていただければなと思います。

それから落としどころが見えないということも最初の質問でしたと思いますけども、次のまた事業も、頭の中にはあるということをおっしゃいました。一つのことが見えていないし、落としどころがないのに次の事業ということをおっしゃると、例えば職員に話をすると、職員は付度をせざるを得ない、そういう状況になるわけですが、そこで町長が一体何をしようとしているのかというのが、我々にもちょっと見にくいところがあります。そこをなかなか言いたくても、ここまで出てきても言えないところがあるとは思いますが、そこをここでお話ができる範囲内でお話ししたいと思います。

○議長（鷺田 昭男君） 水谷俊郎町長。

○町長（水谷 俊郎君） 多分、東員町長が出てきてないよというのは、結構道路に關しましてあまり足を運んでないのは事実です。東海環状だとか新名神だとか、いろいろありますよね。確かにあまり行ってません。これはもう正直に申し上げます。

ただ、他の東員町そのものにかかわることに関しましては、やっぱり必要なところへちゃんと足を運ぶということは、これは必要だろうというふうに思っていますので、政権政党、それから野党であろうが、有効な方について、足を運ぶということにしております。

そして議員さんばかりではなくて、ピンポイントに省庁、例えば総務省のここだとか、それから内閣府のここだとか、そういうところの役人の皆さんとは、話を直接させていただくというふうな機会も持っております。

次の目標ということですが、次の目標というのはC A Bの後、もしだめになったときにその後ということだろうと思うんですけど、これは目標は変わっておりません。農業を核としたまちづくり、農業を核とした観光振興、こういうことで、それは方向は全く変わっておりません。

ただ、C A Bがこういう状態になってきておりますので、ここだけにもたれかかっておってもどうしようもないなという意識がありまして、目的は同じでも、それにかかわる東員町へ投資してくれる、東員町のためにそこで進出していただける、東員町の若手農業者を育成してくれる、そんなところを探しております、実際に少し話を進めているところもありますが、こちらがはっきりしましたら、もしだめになった場合に、新たに手を組むところということは必要かなというふうに思っております。

ただ、方向性としては全く変わってないということだけ、ご理解をいただきたいと思います。

○議長（鷺田 昭男君） 三宅耕三議員。

○12番（三宅 耕三君） ありがとうございます。

政治の力で風穴を空けるということは大変結構なことだと思います。一つの団体にこだわることなく、ぜひ今、頭の中で描いていらっしゃる、そのことを、もしもこのことがだめになった場合ということで備えるということは、ある意味大切なことかと思しますので、よろしくお願ひしたいと思います。

一昨日のテレビのニュースで見えておりました中谷元防衛大臣が安倍総理に送った言葉というのがあります。「あいうえお」「あ」は焦らず、「い」はいばらず、「う」は浮かれず、「え」えこひいきをせず、「お」おごらずということを、同じ党内の人が総理大臣に送ったということですが、私もこの言葉を町長に送って一般質問を終わりたいと思います。

ありがとうございました。